

11 番（小川義昭君） 次に、防犯・防災に関して質問いたします。

工業団地がある石川地区には、外国人住民が多く在住しています。これに伴い、同地区での外国人対策が重要と考え、石川地区の町内会長会と石川公民館の要望を受け、市国際交流室が仲介する形で、ことし1月、トラブルを未然に防ぐ試みとして、住民と外国人実習生との交流会が初めて開かれました。

これまで、習慣や言葉の壁から、ごみ出しのルールを守らないばかりか、夜道に無灯火で自転車に乗ったりする外国人が目立ち、住民から苦情が寄せられていたことが背景にあり、交流会はそうした双方の理解を深める目的で開かれたと聞いています。

交流会では、外国人にはごみの分別方法や警察による交通ルールの指導が行われ、また住民は実習生からベトナム文化の説明を受けたとのこと。住民、外国人双方から好評で、今後も継続して開く方針だそうです。

しかしその後、5月7日未明、市内の企業の従業員寮で、ベトナム人技能実習生による殺人未遂事件が起きました。ものづくり企業が多い白山市内では、各企業の生産活動が旺盛になっている折から、今後も人手不足を補う形で、工業団地周辺の地区に外国人がふえてくることが予想されます。今回は外国人実習生同士の事件でしたが、これからは住民が巻き込まれる事態が起こらないとも限りません。そのためにも早急な対策を講じる必要があるかと考えます。

そこで質問します。

まず、白山市内の外国人住民数とそれぞれの工業団地周辺に住んでいる外国人の数について伺います。

さらに、市内に在住している外国人技能実習生と住民との融和を図る対策が図られているのか、具体的にお示してください。

とりわけ、市は主導的なスタンスをとり、サポート役に甘んじることなく、もっと積極的にかかわるべきだとも考えますが、この点についても見解をお聞かせください。